

	<p>る。また、工房の拡充について、改修計画案を作成し、改修に着手する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽学部では、P D C A 推進による演奏会の検証について、特に「評価 (Check)」の具体的な方法を検討するとともに、国際室内楽フェスティバルの開催を引き続き検討する。また、テクノロジー系・複合芸術に係る芸術教育についてのメディア映像専攻との連携を視野に入れて検討する。 アーティスト・イン・レジデンス、及び外国人客員教員による事業について、新型コロナウイルス感染症による影響も踏まえた制度のあり方を検討しつつ、実施する。 	<p>させた。また工房の拡充に向けてワーキンググループを立ち上げ、工房配置の図面作成や、導入機材についての検討を開始したが、同時期に長寿命化工事や建設予定の新彫刻専攻棟と導入機材が重複しないように複雑な工事や工期の関係性を考慮し、効率の良い再調整を行うために 2022 年度まで全体の改修工期を延期することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏会が抱える課題を顕在化するために、本学主催の演奏会用アンケートの設問内容や様式などを整備するとともに、演奏会関係者へのフィードバックの仕組みについても検討した。また、メディア映像専攻との連携を視野に入れた新たな試みとして、陶磁専攻と作曲コースの授業を同時開講し、学部専攻を超えたインタラクティブな作品制作を実施した。また、芸術学専攻と作曲コースの教員が共同で環境音を録音する実験を行った。 国際室内楽フェスティバルの開催については、新型コロナウイルス感染症の影響で国際交流に見通しが立たないため、状況を見極めた上で検討を進めていくこととした。 <p>[参考資料 10]</p> <ul style="list-style-type: none"> アーティスト・イン・レジデンス事業は、4 件の企画を採択し 2 件 2 名のアーティストを招聘し実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施ができなかった企画 2 件について、延期できる事業は、2022 年度の企画として改めて実施を検討することとした。また 2022 年度の募集要項に新型コロナウイルス感染症対策への対応への注意点を新たに加えた。 外国人客員教員の活動としては、弦楽合奏第 16 回定期演奏会、愛知県立芸術大学管弦楽団第 32 回定期演奏会、ケルンの風Ⅶ、ショパンピアノ協奏曲の夕べを実施した。 <p>[参考資料 11]</p>	
--	--	--	--

<p>31 芸術基礎教育、教養・外国語教育についても、一層の充実に向けカリキュラムや授業科目などを点検し、必要に応じて見直しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎教育科目第2期改革推進事業の計画に沿って、研究・検討をすすめる。また、新型コロナウイルス感染症の影響も鑑み、課題の洗い出し、学生のニーズ調査を行った上で、新設科目の必要性を検討する。 国際的な芸術活動の推進に向け、語学教育のさらなる充実に向けた方策を検討するとともに、T Aの登用や国際的な語学検定試験のサポートなどきめ細かなサポートを行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎教育科目（副科実技等）第2期の改革推進事業である本学独自のソルフュージュ教育システムを確立するための取組は2年目となり、授業で使用するために「リズム課題」を中心とした教科書を作成し、出版した。 履修方法等について、一部の学生を対象に、学生のニーズ調査を行った。 英語、ドイツ語、イタリア語ではT Aによる学生一人ひとりに対するきめ細やかなサポートに加え、語学教員等による国際的な語学検定試験の受験サポートとして、TOEIC L&R テストの形式に対応した教科書を使用した受験対策や、各学生に合った各言語（英語、ドイツ語、イタリア語）の検定試験の周知や勧奨を実施した。 	
<p>32 大学院教育では、世界に通用する芸術家や芸術文化の発展に寄与できる各専門領域のリーダーになりうる人材の育成に向け、世界トップレベルの魅力ある専門教育を推進するとともに、大学院の入学志願者確保に向けた取組を検討・実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保存修復研究所が行う修復事業等への学生参加や、文化財保存・防災に関する学びの機会と保存意識の向上のため地域文化財に触れる機会を設ける。また、高度な技術を大学院専門教育に反映させる。 より魅力あるカリキュラムを目指し、領域を超えた授業科目の拡充及び指導体制の見直しなどについて検討する。 アウトリーチプロジェクトについて、これまでの成果や新型コロナウイルス感染症による影響も踏まえつつ、音美複合プロジェクトの充実について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存修復研究所では、本学図書館蔵「福富草子絵巻模本」の修理を学生主体で行った。後期からは新たに豊田市須賀神社蔵「農村舞台襖絵」を教育資料として修復事業を受託し、学生が主体となって襖の解体や下貼文書の保存、本紙の保存修復処置、襖下地下貼作業に着手した。文化財作品の科学的調査に必要な光学調査機器の取り扱い手法や理念といった高度な技術について、学生が複数回に渡って学ぶ機会を設けた。講座「災害と文化財」関連で芸術講座「第六回災害と文化財」を開催して学生にも聴講させたり、地元寺院の悉皆調査の一環として長久手市教園寺の調査を県大と共同して学生参加で実施した。熟覧調査では奈良国立博物館蔵国宝「十一面観音像」および重文「如意輪観音像」の2回実施し、調査結果を学生の修了研究に反映させた。また、技法関係では、科研で行っている中世やまと絵の復元技法を、図像復元をテーマとした課題において実技演習を行った。 音楽研究科において将来計画委員会主体で実施した「現状の課題調査」結果から、カリキュラムに関する課題を多面的に集約し、次年度以降に継続する検討を開始した。 コロナ禍におけるアウトリーチ活動の可能性を検討しつつ、動画配信を含む実践として、提携病院である藤田医科大学へ動画を提供したほか、病院以外の訪問先として、障害のある人のための施設訪問を行った。その後作成した病院アウトリーチプロ 	

	<ul style="list-style-type: none"> 大学院教育の充実および志願者の確保に向け、領域・分野の再編も含めた教育体制の検討を行う。 	<p>ジェクト報告書には、動画アクセス用 QR コードを掲載して動画へ容易にアクセスできるよう工夫した。なお、報告書は2022年度に病院を中心に福祉施設や大学等へ200件弱を送付予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトリーチ活動における音美複合プロジェクトの充実について検討するために、両学部を担当教員間でそれぞれの活動についての情報交換を行なった。 <p>[参考資料 12]</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽研究科の博士後期課程委員会において、博士後期課程の指導体制について検討し、新たに管楽器（フルート）の教員による指導が可能な体制を整備し、管楽器の学生の受け入れを可能にした。 	
<p>イ 教育の実施体制等</p> <p>33 特色ある教育研究の展開に向け、必要に応じ専攻やカリキュラムを見直しする。また、学生による授業アンケート、教員による自己点検・評価などを活用し、各学部・専攻及び全学FD委員会が、芸大に相応しいFD活動を推進し、教育力の向上につなげる。 【重点的計画】</p> <p>(指標)</p> <p>2022 年度に、美術学部デザイン・工芸科の専攻・領域を見直し、新たに「メディア映像専攻」を開設する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員による自己点検・評価、学生による授業アンケートについて、授業効果向上のため、質問項目の改善を検討する。また、芸術大学に相応しい実技に関するFDを引き続き検討し、実施する。 メディア映像専攻の開設に向け、カリキュラムの最終調整および必要な手続き・準備を完了する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業効果向上のため、授業アンケートの質問事項を他大学の授業評価アンケートを参考にFD委員会で検討し、アンケート回答をする際に回答者の学生に分かりやすい回答順序となるよう変更を行った。また、芸術大学に相応しい特色あるFD活動の一環として講評会や実技試験において、担当以外の教員からも講評や指導を受ける機会を設定した。学生の意識や技術の向上に繋がり、指導の改善にも役立った。また、学生相談室による学生相談事項の傾向についての説明を教授会で実施し、学生指導における注意事項について喚起した。さらに学生委員会、芸術教育・学生支援センター運営委員会においても、注意すべきハラスメント事例を説明し、各専攻にて情報共有をした。 カリキュラムの最終案を教授会にて最終承認し、速やかに文部科学省への手続きを完了した。新たなメディア映像表現の開拓に挑戦するため、時代のニーズに合わせてこれまでの芸術の枠にとらわれずに分野・領域を柔軟に横断する独自の少人数教育カリキュラムを構成した。また、先進的なメディア映像に対応する技術力とそれを具現化できるデザイン力、表現力を養成する環境を整備した。さらに、最新情報を取り入れた質の高い教育を展開するために、「特任教授」として国内の著名なアーティストの招聘を実現した。 <p>[参考資料 13]</p>	

<p>34 学生が、安心・安全な環境で、また地域社会にも開かれた豊かな魅力あるキャンパスで伸び伸びと芸術に打ち込むことができるよう、キャンパス安全対策・利便性向上策を計画的に検討・推進する。また、老朽化施設・設備については、引き続き県と協議しつつキャンパスマスタープランを基に整備促進に取り組む。</p> <p>【重点的計画】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き大学施設・設備の安全面・利便性について、現状の課題を精査し、優先順位をつけて対応を検討する。 老朽化施設・設備について県と協議しつつ整備促進に取り組むとともに、キャンパスマスタープランの更新を行うために各施設の状態を的確に把握する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内の安全性・利便性の向上については、今年度、県が基本設計を策定している長寿命化計画の中で対応することを原則とし、長寿命化計画への織り込みを網羅的にフォローした。長寿命化計画での対応では不十分な、緊急性のある事案等については、適宜、対応を行うこととし、かねてから交通安全上の不安が認識されていた、学内への進入道路の側溝に、安全対策（グレーチング設置）を実施した。また、耐震上の懸念があった奏楽堂の非構造部材（天井反射板、照明器具等）の耐震補強を実施した。 県が実施する長寿命化計画基本設計に対して、施設整備委員会で建物毎の責任者を明確にし、委員会で情報共有をしつつ、積極的かつ主体的に基本設計策定に協力した。 キャンパスマスタープランの更新については、元々各施設の状態を的確に把握する計画であったところ、年度初頭にその計画を超えて当年度中に更新する方針を決定し、3月に「愛知県立芸術大学キャンパスマスタープラン2021」を発表した。キャンパスマスタープランの策定にあたっては、外部有識者2名および県の関連部署の課長職2名を招聘して5月に「愛知県立芸術大学キャンパスマスタープラン2021策定委員会」（以下、策定委員会）を設置し、同時に教員7名、職員3名、オブザーバーの県職員1名で学内作業部会も組成した。なお、策定委員会は3回（2021/10月、2021/12月、2022/2月）開催し、第3回には自然環境整備に関する外部有識者および県の自然環境関連部署の課長職を招聘するなど、多面的かつ十分な検討を行った。 	
<p>ウ 学生への支援</p> <p>35 学生が意欲的に学習に打ち込めるよう、工房設備、ICT環境などの整備・機能強化、及び教育資器材の充実について検討・推進する。また、障害者差別解消法を踏まえ、バリアフリー化をはじめ、障害のある学生に配慮したキャンパス環境整備や支援対策について検討・推進する。</p> <p>【重点的計画】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学習環境の整備に向け、キャンパスICT環境、工房の設備、楽器等の教育資器材などの整備・充実を検討・推進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の教育環境の改善のため、スタインウェイピアノを3台購入し、レッスン等で学生がスタインウェイピアノを使用できる機会を増やした。また工房拡充のため、ワーキンググループを立ち上げ、工房配置の図面作成や、導入機材についての検討を重ねた。さらに、ICT環境の整備については美術学部エリア（油画アトリエ、ピロティ・大工房・研究棟）、新音楽学部棟（練習室）、講義棟、新講義棟、芸術資料館、奏楽堂、体育館等、教室やピロティ等の共有スペースを中心に、無線LANを55台新規設置した。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある学生及び配慮が必要な学生への支援として、外部の専門家や専門機関等との連携を推進する。また、キャンパスのバリアフリー化について県と協議し、対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配慮が必要な学生の支援として、外部の機関と連携し、2022年度から学生のメンタルケアを強化する体制を整備した。また、キャンパスのバリアフリー化は、県が実施する長寿命化計画において、キャンパス全域における段差解消、エレベーター等の機器設置等を基本設計の中に計画し、計画的に整備することとなった。 	
<p>36 学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進する。また、卒業生・修了生が芸術活動を継続するための様々なサポートを行い、自立を支援する。経済的困難を抱えた学生には授業料減免等によるサポートを引き続き実施する。</p> <p>【重点的計画】</p> <p><指標> キャリアサポートガイダンスを、毎年度25件以上実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、学生の将来目標・設計、自立を促すキャリア支援、及び実践的なガイダンスの開催などにより専門を生かせる就職支援を実施する。 ・ 卒業生・修了生、若手研究者の活動・自立支援に向け、学内施設貸出、大学による広報などについて検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸大生に特化した独自企画のキャリアガイダンス強化に取り組み、新型コロナウイルス感染症対策を講じて28件を実施した。(対面実施：19件、オンライン実施：9件(当初からオンラインで実施予定4件、コロナ禍による対面からオンラインへの実施変更5件)) ・ 新規取り組みとして、学部1・2年生対象の「電通 Ideation FACTORY」を初開催した。クリエイター職を目指す学生に「問題解決のための発想力を養う」ことを目的とし、「今・まだ・ここにはない」アイディアを育むためのトレーニングと企画化を体験するワークショップを実施した。また、芸術学生のための合同企業説明会をオンラインで実施することで既卒応募可企業の誘致を強化し、未内定の学部4年生・大学院2年生の救済を図った。 ・ 「卒業後に作家として生き抜くには」というタイトルのレクチャーを、大学院生と学部生に対して実施した。 ・ 東京 3331 において、現代アート作品展示による、卒業前の学生に芸術家としてのキャリア支援として発表の機会を創出した。 <p>[参考資料 14] [データ集 3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生、修了生、若手研究者の活動、自立支援のために、公式 Web サイト内ページ「在学生・卒業生の活動」と公式 SNS で卒業生、修了生の活動を公表、「学報」(年1回発行)において受賞等の一覧を掲載した。 ・ 国際的アートフェア(アーツ千代田 3331)や国際芸術祭「あいち 2022」関連企画(アートルボあいち)に卒業生、学生を派遣した。サテライトギャラリー SA・KURA では、卒業生・修了生、若手研究者による企画を開催した。 ・ (一財)後藤欣之輔・美智子世の中に貢献する人を育てる協会からの支援により、国際的活動や経験を生かした卒業生、修了生及び学生を対象として、次世代の芸術家の活躍につながる機会を創出することを目的に展覧会、演奏会開催を支援し、9名 	

	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による影響も含め、経済的困難を抱えた学生へのサポートを継続実施する。 	<p>が採択された。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部経済連合イノベーターズガレッジとの提携事業の一つである、現代アート作品展示では、卒業前後の学生に芸術家としてのキャリア支援として発表の機会を創出した。 愛知アートルボ（国際芸術祭連携施設）での現代アート作品展示において、卒業前後の学生に芸術家としてのキャリア支援として発表の機会を創出した。 授業料については、国の就学支援制度は前期 83 名（全額免除：45 名、2/3 免除：23 名、1/3 免除：15 名）、後期 79 名（全額免除：47 名、2/3 免除：22 名、1/3 免除：10 名）、法人授業料免除制度は前期 19 名（全額免除：7 名、2/3 免除：3 名、半額免除：2 名、1/3 免除：7 名、1/6 免除：0 名）、後期 16 名（全額免除：5 名、2/3 免除：1 名、半額免除：2 名、1/3 免除：8 名、1/6 免除：0 名）を減免（院生・留学生除）した。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生緊急支援金を 40 名に給付（院生・留学生含）した。さらに、自宅外から通学する経済的に困窮している学生に食料支援を実施（1 人あたり 3,000 円相当の食料品及び長久手市より提供の米を申請者 119 名に支給、豊田市からの食品等のセットを 200 名に支給）、長久手市社会福祉協議会より提供された生理用品（約 180 包）及びトイレットペーパー（90 個）を学生へ配布した。 新型コロナウイルス感染症対策助成事業として、学生 1 人あたり 2,000 円を学生約 1,000 人（補助実数 698 人）に生協電子マネー（キャンパスペイ）へのチャージで補助した。またさらに、第 2 弾で 1 人あたり 1,300 円の同様にキャンパスペイチャージを実施した。 	
<p>エ 入学者選抜</p> <p>37 2021 年度入学者選抜から実施の「大学入学共通テスト」をも踏まえ、芸術系大学の入試として相応しい入試方法・内容・日程などについて検討し、必要に応じ見直しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他の芸術系大学等の情報収集を行い、芸術系大学の入試として相応しい方法・内容・日程等の見直しを検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術研究科では、留学生の日本語能力の担保の課題解決のため、2023 年度より、外国人留学生に対する出願資格として、日本語能力試験 N2 以上を課すこととした。また学部入試では、2024 年度入学者選抜より、美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻の一般選抜において試験科目及び点数配分を変更とすることとした。具体的には、色彩または立体のどちらか一方の分野が特に秀でている学生の確保や、入学者が特性を活かし刺激・交流する環境の構築及び受験者数の増加を目的として、個別学力検査の実技試験において必須科目としていた「色彩構成」及び「立体構成」を選択制に改めることとした。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の入学選抜において行うメディア映像専攻を始めとする様々な選抜方法の変更に向けた準備を行う。また、私費外国人留学生に向けた特別選抜の導入について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーに相応しい学生の獲得を目的に、2022年度入学選抜より、美術学部メディア映像専攻の一般選抜及び総合型選抜の実施、陶磁専攻での総合型選抜の導入、彫刻専攻の点数配分の変更、芸術学専攻の共通テストの科目変更、音楽学部作曲コースの試験内容及び試験時間の変更など、様々な選抜方法の変更を行う予定となっており、全ての入試において滞りなく実施することができた。 ・私費外国人留学生に向けた特別入試の導入については、検討の結果、学部教育を受けるに相応しい学力の担保ができないと判断し、導入を見送ることとした。 <p style="text-align: right;">[データ集1・2]</p>	
<p>38 本学における教育研究の特色・魅力や、卒業生・修了生の活躍等、受験生ニーズの高い情報を積極的に発信するなど、効果的な入試広報活動を展開する。</p> <p>また、優秀な学生の確保に向け、芸術系学科を有する高校との連携強化、ファウンデーション講習（大学進学準備講習）の開講などを検討・推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア映像専攻について、情報公開のタイミングや周知方法についての計画立案、広報媒体の作成を行い、ガイダンスの場や高校等で周知を行う。 ・芸術系学科を持つ主要高校へのヒアリングを行い、進学状況等を把握するとともに、定期的かつ緊密な連絡を継続し、更なる連携に努める。また、出張授業を糸口として芸術系への進学希望者に対するファウンデーション教育を定期的実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来校型オープンキャンパスにてメディア映像専攻の教員情報を公開する予定であったが、緊急事態宣言発出により、中止となった。予定を変更し、専攻別サイトにて教員情報を公開し、この専攻別サイトのリンクをWEBオープンキャンパスの特設サイトに貼り、周知を図った。また、進学ガイダンスや主要美術系高校を訪問する際に、冊子（ニュースレター）を持参し、メディア映像専攻について説明した。 ・本学に志願者の多い芸術系学科を持つ近隣の主要高校を新型コロナウイルス感染症の状況・タイミングを計りつつ教員と職員とで訪問し、緊密な連携関係を維持した。 ・美術学部では近隣及び他県の高校へ卒業制作講評、出前授業、懇談会等、音楽学部では本学競合校への志望が多い高校を対象に本学紹介、演奏、個別レッスンを行い、芸術系大学への進学希望者に対して芸術の基礎教育に繋がるファウンデーション教育を実施した。 	

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 2 愛知県立芸術大学
 (2) 研究に関する目標

中期目標	芸術家集団としての教員による活動や特色ある質の高い研究を推進し、その成果を地域に還元するとともに、国際的にも発信する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	
<p>39 芸術家集団としての教員による展覧会・演奏会などの芸術活動、及び文化財保存修復研究などの特色・魅力ある世界的にも質の高い研究をより一層推進し、その成果を地域に還元するとともに国際的にも発信する。 【重点的計画】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による展覧会・演奏会などの芸術活動を新型コロナウイルス感染症対策(感染予防及び実施方法の工夫)を講じた上で推進するとともに、新たな活動の可能性を模索する。 ・芸術家集団として、特色・魅力ある世界的に質の高い研究を推進するとともに、研究成果の国際的な発信に繋げるための企画検討を進める。また、新型コロナウイルスの影響下における芸術・研究活動およびその成果発信の可能性について検討し、実践する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術学部では新型コロナウイルス感染症の予防対策を十分に実施した上で教員展を開催した。学外者は事前予約制とし、学内観覧者と合わせて30人以下とした。また客員教員の出品を控えてもらい、作品間の間隔を十分に取り、観覧者の密を避ける工夫をした。 ・新たな活動として、音楽学部定期演奏会では教員と学生の共演企画(弦楽器、管打楽器)を取り入れ、作曲作品演奏会では教員の作曲作品をプログラムに取り入れた。また中村桃子基金研究助成による「ショパンピアノ協奏曲のタペ(ピアノ)」、客員教授と本学教員による「ケルンの風VII」を開催した。 [参考資料15] [データ集8・9] ・コロナ禍で演奏会等のイベント開催が困難な中、アーティスト・イン・レジデンス事業としてドイツのヴェルツブルク音楽大学の教授のコントラバス奏者を招聘し、学部定期演奏会の弦楽器コースの催しにゲスト奏者として出演、2度の公開レッスン、弦楽器コースの教員との室内楽コンサート(コントラバスデュオ・リサイタル)を室内楽ホールと学外で開催した。また、コンセプチュアルアーティストを招聘し、芸術資料館とサテライトギャラリーで個展を開催、学内向けのレクチャー授業を実施した。 ・美術学部デザイン専攻の教員を中心とするグループが取り組んだ、障害のある人と作り上げる日用品「See Sew」がグッドデザイン賞を受賞した。 ・学外公募により選考されたアーティストを招聘し、学生と交流に加え、学生と芸術資料館で展示を行った。 ・芸術講座「長久手の文化財」で、模写作品制作の《長久手合戦図》屏風の原本作品の成立や、文化財保存修復研究所が請負った長久手中学校壁画《虹》修復の成果についての講演を開催した。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の文化財保存修復学会にて、美術学部教員や文化財保存修復研究所研究員・准研究員による計4件のポスター発表を行った。 ・文化財保存修復研究所で受け入れた研究員に対して、論文執筆や研究内容の専門性を高めるために、研究に必要な専門知識を持つ研究所以外の本学教員が、当該教員の専門的な研究に応じた機器の測定方法指導及び測定機材の貸し出しなどのサポートを行った。 ・カリフォルニア大学（アメリカ）教授やドイツの世界的ソプラノ歌手を招聘し実施予定であった公開レッスンや成果発表のための演奏会、並びにバトラー大学（アメリカ）へ本学教員・学生が国際交流事業として赴き実施予定であった研究成果発表等については、コロナ禍ということから、いずれも中止となった。 	
<p>40 特色・魅力ある研究の推進に向け、研究の推進・支援体制の点検、環境の整備、企業等との連携強化、及び外部資金等の獲得増に取り組む。 【重点的計画】</p> <p>(指標) 科学研究費補助金及びその他の助成金を、毎年度20件以上申請する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の推進・支援体制の点検、施設・設備の環境整備を進める。 ・企業、研究機関などとの連携、共同研究を推進する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究活動の支援のために、科研費、その他助成金等の募集情報を提供し、申請書作成、申請書提出、採択後の予算管理及び関係手続等の支援や各種相談に事務職員が随時対応した。 ・令和4年度科研費公募時期が前倒しとなり、締切が9月と10月に分かれたため、教員への説明会（教授会含む）の頻度を増やし、夏季休業中は、メールによる情報提供などを行った。 ・名古屋大学を代表とする起業家育成プロジェクト「Tongali (Tokai Network for Global Leading Innovators)」の実施するスタートアップ創出の環境整備等を目的とした研究活動に、共同機関として参画した。本学では、起業支援活動を行うための環境整備の一環として、本プロジェクト用のWeb会議設備を学内に設置した。 ・(公財)あいち産業振興機構の仲介により、中部リサイクル(株)と陶磁専攻教員、彫刻専攻教員による「中部リサイクル製造石材の新規製品開発」の共同研究を行った。 ・名古屋造形大学と日本画専攻教員による野亨寺藏「親鸞聖人絵伝」の保存処置および調査研究の共同研究を行った。本研究は解体修理に伴う本図の技法や材料の検討と、伊勢湾台風によって水損した状態等の調査も同時に試みるものである。 ・文化財保存修復研究所の調査部門では、愛知県美術館、名古屋市美術館の所蔵作品における劣化状況の調査を受託し、将来的な共同修復研究への足場づくりを行った。さらに、7月に愛知県立美術館で収蔵品の中から新たな作品（洋画家宮本三郎の 	

	<p>・科研費・助成金等のタイムリーな情報提供を継続するとともに、愛芸アシスト基金の周知・寄付依頼を積極的に行うなど、外部資金・寄附金の獲得増に向けた取組を推進する。</p>	<p>「裸婦」の存在が明らかになった際、同館から依頼を受け、文化財保存修復研究所において同作品の調査研究・修復を実施した。この研究成果は、4月開催予定の同館コレクション展で報告予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京藝術大学との連携による「だれでもピアノ」事業、および愛知県立大学ICTテクノポリス研究所との連携による「音楽の感情測定プロジェクト」に、病院アウトリーチプロジェクトとして関わる事ができた。 ・東京藝術大学油画専攻技法材料研究室との共同研究「有機天然顔料の生成に関する研究」を実施した。 ・不二サッシ（株）との共同研究でアルミ原材料を使用した現代アート作品をSDGsの観点からの次世代活用として市原アートミック芸術祭に共同参加した。 ・2016年から陶磁器関連産業の活性化と人材育成に寄与することを目的にセラミックデザインコンペティション事業を受託し、2020年度はセラミックの可能性「出会い」をテーマに「第3回 CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 2020」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2021年5月に延期した第2次審査会は、初めての試みとしてライブ配信形式（オンライン）とした。全国から202件の応募があり、入賞5件、入選8件を選考した。また、第2次審査会翌日から、人数限定・事前申込制で入賞入選作品展を芸術資料館で開催し、YouTubeでも公開した。 <p style="text-align: right;">[参考資料 16]</p> <p>・過去に愛芸アシスト基金に寄附いただいたが現在は寄附のない方に、展覧会・演奏会の開催情報とともに寄附申込書を送付し、継続・再開を呼びかけた。</p> <p>・芸大主催イベントで「寄附申込書」及び「愛芸アシスト支援事業報告集」を配置し、一般の方々への周知を行った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大の影響で演奏会の来場者を半数程度に限定していることから、招待者へのダイレクトメール案内について、年4回から9回に増やした。</p> <p>・新たに学報の裏表紙に寄附の案内を掲載し、周知する機会を増やした。</p> <p>・2021年度の寄附は、法人11件、個人112件、計3,610千円であった。</p> <p>・過去3カ年の寄附の状況は、法人からの寄附は2019年度24件、2020年度13件、2021年度11件で、個人からの寄附は、2019年度107件、2020年度108件、2021年度112件であった。個人の寄附については、寄附の継続・再開の呼びかけ等の取組</p>	
--	---	---	--

		<p>みもあり、新型コロナウイルス感染拡大の状況下においても件数を増加させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年4月よりクレジットカードによる寄附制度を開始し、2020年度は17件、2021年度は25件の利用があった。 ・助成金に関する情報を月2～4回のペースで合計43回(139件)発信した。 ・2021年度の外部資金への申請件数は、芸術資料館や芸術情報・広報課からも積極的に助成金等を申請(団体申請)し、申請件数は合計23件(他に教員個人応募4件あり)、うち採択件数は12件、結果待ち1件であった。 <p>[データ集5・6]</p>	
--	--	--	--

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 2 愛知県立芸術大学
 (3) 地域連携・貢献に関する目標

中期目標	<p>愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進し、地域文化を担う人材の育成、地域の芸術文化の発展に貢献する。</p> <p>また、大学と地域を共に発展させることを目指し、演奏会・展覧会等、教育研究成果の積極的な発信を行うとともに、県民が芸術に親しむ機会の創出に努める。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	
<p>41 愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進し、地域文化を担う人材の育成、地域の芸術文化の発展に貢献する。また、大学と地域を共に発展させることを目指し、演奏会・展覧会等、教育研究成果の積極的な発信を行うとともに、県民が芸術に親しむ機会の創出に努める。</p>	<p>・国際芸術祭「あいち」をはじめとする愛知県の文化芸術振興施策と連携した取組を推進する。また、「あいち・アールブリュット」など、愛知県の障害者芸術への取組に協力する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際芸術祭「あいち2022」プロモーションムービーの楽曲を音楽学部作曲コース教員が制作し、学生も演奏に参加した。 ・国際芸術祭「あいち2022」との連携プロジェクトとして本学企画「めがねかえてみる？」と連携企画の芸術講座をアートラボあいちにて開催した。新型コロナウイルス感染症拡大と台風接近に伴い対面開催は中止しライブ配信およびアーカイブ配信を実施した。また、サテライトギャラリーSA・KURAで開催した展覧会「遠藤麻衣/燃ゆる想いに身を焼きながら」と同時開催し、告知にあたっては、アートラボあいち、国際芸術祭あいち事務局と連携して実施した。 ・「あいちアール・ブリュット」舞台企画として、「愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる木管五重奏の午後」(卒業生)を昭和文化的小劇場で開催、また県内4か所の障害者施設等に演奏者を派遣し演奏会を開催した。さらに、本学及び愛知県芸術劇場の主催で、愛知県芸術劇場の自主事業(愛知芸文フェス)「第31回愛知県立芸術大学管弦楽団演奏会」を開催したこ 	

	<p>・長久手市などの自治体、他大学、産業界、地域社会など、様々な機関との連携を推進する。</p>	<p>とに加え、「あいちアール・ブリュット サテライト展」を障害福祉課と連携し、陶磁美術館との共催にて2月に開催した。 [参考資料 17・18] [データ集 8・9]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長久手市との大学連携推進ビジョン 4U での活動に加え、長久手市の教員の資質向上を目的として毎年実施されている研修会が本学で開催され、長久手市教育長はじめ市内小中学校幹部教職員 40 名程度の参加があり、本学の特色説明、新型コロナウイルス感染防止対策の説明および施設見学を行った。 ・尾張旭市と包括協定を締結し、受託事業として三郷駅前まちづくり支援事業を実施した。芸術大学が駅前再開発事業に参画しより良いデザインの意思決定を支援する仕組みを構築し、2021 年度の受託事業ではオンラインフォーラムと 3 回の市民ワークショップを実施した。ここで得られた方針をまとめたレポートの作成も行った。 ・中部経済連合直轄の中部圏イノベーション推進機構との連携をさらに進め、受託事業として MUSIC in the GRAGE! を 2 回開催した。また、次世代を担う若手芸術家の発信発表の場を創出し、経済界と現代アートとの融合、停滞した経済への考え方を革新する新たな価値観を生み出す活動を連携して実施し、賞の創設、制度設計、受賞者の審査を行った。 ・常滑市小脇公園森林環境ワークショップを実施したほか、管理棟喫茶室リニューアル提案を受託事業として実施した。 ・名古屋大学に演奏者を派遣し名大キャンパスコンサートを開催した（年 2 回の開催予定であったが、名大がワクチン接種会場になり 8 月は中止となった）。 ・名古屋工業大学のアートフルキャンパス構想への協力依頼があり、共同事業として契約を締結し、具体的な作業に入った。3 月末までに本学学生・卒業生や非常勤講師等の作品 10 点、名古屋工業大学賞受賞作品 2 点の作品を納品・設置した。さらに、本共同事業を足掛かりに、2022 年 4 月に包括協定を締結することとなり、準備を行った。 ・（公財）あいち産業振興機構設立 50 周年を記念して依頼のあった記念ロゴマークを作成した。 ・愛知県弁護士会からの会報表紙のデザイン依頼があり、受託事業として実施した。 ・長久手アピタリニューアルオープンメインビジュアル作成依頼があり、地域連携事業として実施した。 ・瀬戸 SOLAN 小学校から壁画作成依頼があり、地域連携事業として油画・日本画各 1 点を納品、除幕式が行われた。 	
--	---	---	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・提携事業「MUSIC WEEKEND 室内楽の楽しみ」（協力：長久手市）を2年ぶりに長久手市文化の家にて開催した（昨年度はコロナのため中止となった）。 ・名古屋市文化事業団との共催で「愛知県立芸術大学学生によるピアノ名曲の夕べ 新進演奏家コンサート」、「愛知県立芸術大学学生による ピアノ名曲コンサート」を開催した。 ・長久手市リニモテラス公益施設にて美術学部と音楽学部の教員の連携企画「共鳴～Kyo-meい」を開催した。 ・愛知県公園緑地課が主催する「環境デザイン夏季講座」は1998年度から毎年開催し、当初より本学デザイン専攻教員が協力してきた。23回目となる2021年度は対象を豊橋市とし、デザイン専攻教員による講座プログラムの設計や、大学院生による調査研究の発表を行った。受講生30名に対し、フィールドワークからデザイン提案までを短期間で作成する体験を提供した。本講座は、行政職員の日常業務に様々なデザインとの接点が存在することを学習する機会となっており、これまでの受講生は述べ700人に達している。 ・その他、マスクデザイン学生企画、カレットガラス再利用事業、産業界からの連携依頼等があり、都度、社会連携センター運営委員会にて審議した結果、カレットガラス再利用事業との連携について具体的に検討していくことを決定した。 	
<p>42 展覧会、演奏会など（卒業制作展、卒業演奏会等を含む）を通じ教育研究成果を県民・地域に還元するとともに、アウトリーチの本格展開、本学収蔵作品など芸大資産の公開、及び生涯教育講座の開設などを推進し、県民が芸術に親しむ機会の創出に努める。また、芸術企画及び行政・地域との連携の総合的窓口である芸術創造センターを芸術・社会連携センターに名称変更し、機能強化に向けた見直しを実施する。 【重点的計画】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県民が芸術に親しむ機会を創出するため展覧会・演奏会および芸術講座を積極的に実施し、教育研究成果を地域に還元する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術講座については、11講座のうち、コロナウイルスの影響を受けながらも8講座を開催することができた。その中の1講座は、台風接近により対面を中止しオンラインで開催した。 ・法隆寺金堂壁画模写展示館春季展及び秋季展を鑑賞時間や、鑑賞人数、換気、事前予約制を導入するなどの新型コロナウイルス感染症対策を講じ開催した。また、コレクション展@サテライトギャラリー（収蔵品展代替企画）を芸術資料館は本学の活動指針に従い学外者の来校制限していることから、サテライトギャラリーにて開催、各専攻研究発表展を学内限定で開催し、学外者については対面での一般公開は実施せず会期終了後芸大Webサイトで一部作品を公開した。 ・管弦楽団東海市公演、愛知室内オケ×管弦楽団合同演奏会（主催：愛知室内オケ）、学内オーディションで選抜された室内楽グループによる「室内楽の楽しみ（長久手市協力、於：長久手市文化の家）」を2年ぶりに開催した。 ・学部定期演奏会、管弦楽団定期演奏会を愛知県芸術劇場コンサートホールにて開催した（一般公開）。その他作曲作品演奏会 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く地域の需要に応えるため、新たなアウトリーチの手法や展開を検討、推進する。 ・ 本学収蔵作品等の芸大資産を社会へ公開するとともに、より充実した展覧会等を行うための方策を検討する。 ・ 日本画専攻・文化財保存修復研究所において、実技系の生涯教育講座を開催するとともに、講義形式の講座開設についても検討する。 	<p>を室内楽ホールで開催、大学オペラ公演を知立市及び長久手市で開催した。ウインドオーケストラ、弦楽合奏、室内楽のタペ、卒業演奏会、修了演奏会等について、感染症対策を徹底した上で開催した。</p> <p>[参考資料 19] [データ集 7]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、通常のアウトリーチ活動が困難な中、演奏会代替の動画配信を活動の提携病院である藤田医科大学病院に提供した。 ・ 東部保育園及び社会福祉法人あしたの丘で、アウトリーチ（演奏会）を実施した。 ・ 障害者支援施設春日苑におけるアウトリーチ（演奏会）は、オミクロン株の影響で、施設での演奏会が当日にキャンセルとなったが、その代替措置として演奏予定の内容で動画を作成し、配信した。 <p>[参考資料 12] [データ集 9]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年、芸術資料館で開催している収蔵品展が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となったが、代替措置として、サテライトギャラリーで博士後期修了生にスポットを当てた当館収蔵の優秀作品と新作作品を展示し、次世代を担う美術家の成果として公開した（前期「コレクション展 1」「宮坂恵子展」後期「久保智史 Boy's LIFE」）。また、感染防止対策を講じ収蔵品を展示した「コレクション展 2」を開催した。 ・ 昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大により法隆寺金堂壁画模写展示館を1年間閉館したが、今年度は、感染拡大防止及び収蔵品等作品保護の両立を図りつつ、人数限定予約制で、春季展及び秋季展ともに開催した。 ・ 収蔵品の貸出件数は、学外2件、学内5件（学外はコロナの影響で例年の半分程度）であった。 <p>[参考資料 19] [データ集 8]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人の専門的な実技系の学びの場としての「リカレント講座」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響から実施を見送った。また講義形式の講座開設の一つとして、愛知県立大学の人間の尊厳と平和のための人文社会研究所の協力を得て、昨年に引き続き、「第6回《災害と文化財》シリーズ「長久手にまつわる文化財」を開催した。コロナ禍での特別編として地元長久手にまつわる文化財をテーマに開催した。 	
--	---	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会連携センターの中で、芸術大学として相応しい地域連携のあり方について検討し推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会連携センターの機能強化に向けた見直しの結果、教員個人や専攻で個別に受け付けていた地域連携案件について、必ず同センターを経由し実施することとした。センターが窓口になったことで責任の主体が明確になり、更に情報が集約された。 ・名古屋大須ロータリークラブとの小中学校での黑板アートの実施、栄徳高等学校との連携では同校 40 周年記念応援歌の作曲依頼を受け連携に着手した。 <p><今年度、産学連携、地域連携の依頼のあった主な案件></p> <p>名古屋工業大学（包括協定締結、アートフルキャンパス構想）、瀬戸 SOLAN 小（構内壁画）、（公財）あいち産業振興機構（50 周年ロゴデザイン）、名古屋東急ホテル（ショーケース展示）、横井定（株）（マスクデザイン企画）、名古屋大学（キャンパスコンサート）、長久手市（大学連携 4U）、愛知県（あいち食育いきいきプラン 2025、愛知県大学対抗ハッカソン Hack Aichi 2021 など）、尾張旭市（包括協定締結、三郷駅周辺まちづくりデザイン）、豊田工業大学（創立 40 周年記念講演会演奏派遣）、日本赤十字豊田看護大学（愛知県赤十字大会における歌唱指導）、常滑市（小脇公園喫茶室リニューアル、ワークショップ）、設楽町（小学校演奏派遣、古民家リノベーションデザインコンペ）、東京藝術大学（だれでもピアノレッスン）、みよし市（SDG s ロゴマーク）、イオンモールノリタケの森（オープニングセレモニー演奏派遣）、愛知県統計協会（愛知県統計功労者表彰式演奏派遣）、JAGDA 愛知（企画展出品募集）、名古屋大須ロータリークラブ（黑板アート）、アイワット（株）（長久手アビタリリニューアルオープンビジュアルデザイン）、豊田市美術館（写生大会学生派遣）、三重大学（地方創生政策アイデアコンテスト協力）、栄徳高校（芸術鑑賞会）、愛知県弁護士会（会報表紙デザイン）、中京テレビ（出展募集）、長久手市文化の家（ART SHOP）など</p>	
<p>43 教育研究成果などの情報発信、及び地域との芸術活動連携などのため、新たに栄サテライトギャラリーを開設し、活用推進する。 【重点的計画】</p> <p>(指標)</p> <p>栄サテライトギャラリーの展覧会等入場者数を、第三期中期計画最終年度に 5,000 人以上とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトギャラリーの積極的な活用を推進するとともに、音楽学部と美術学部が連携した企画を検討、実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術学部と音楽学部の教員の連携企画展覧会「共鳴〜Kyo-me-i」および芸術講座を開催した。全 4 回に渡り、デザイン専攻教員による「共鳴」を連想するワードを書き出していくブレインストーミング（雑談）や、管打楽器コース教員による拍子木を使ったペアワークを含むワークショップを開催、最終回は、両教員がそれぞれの立場から多岐にわたるテーマについてディスカッションを行い、延べ 33 名が参加した。 ・また、収蔵品を展示したコレクション展をはじめ、前期：6 展覧会、後期：6 展覧会を開催した。干支展（寅）FINAL では、3 日間で延べ 172 名の来場があり、学生作品 55 点が出品され、 	

		<p>34点が購入された。博士後期論文・作品展等、本学学生の作品も展示した。</p> <p>・本年度、会期180日、延べ2,541名来場であった。</p> <p>[参考資料20][データ集8]</p>	
--	--	--	--

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 2 愛知県立芸術大学
 (4) その他の重要な目標

中期目標	<p>ア 留学・国際交流支援に関する目標 大学のグローバル化推進に向け、海外大学・機関等との国際交流を推進するとともに、学生の派遣・留学生の受入、教員や学生の国際的な芸術活動を支援する。</p> <p>イ 大学広報の強化に関する目標 大学の活動情報を積極的に発信し、芸大のブランド、知名度の向上に向けた戦略的広報活動を展開する。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	
<p>ア 留学・国際交流支援</p> <p>44 国際的に開かれた大学として、海外大学・機関等との国際交流を推進するとともに、海外留学や国際的な芸術活動の支援、留学生受入制度の多様化などについて検討・実施する。</p>	<p>・新型コロナウイルスの感染拡大収束後の変化を見据えつつ、引き続き、海外大学・機関等との国際交流を推進する。</p> <p>・留学等の海外渡航に関する危機管理体制について、新型コロナウイルス感染症の影響および感染拡大収束後を見据えた点検・見直しを行う。</p> <p>・引き続き、学生が国際的な活動を行うために必要なスキルを身につけるための支援を行うとともに、新型コロナウイルスの感染拡大収束後に実施可能な海外プロ</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・韓国・ソウル市立大学と交流協定を締結し、芸術に関する交流及び教育研究協力を行うこととなった。また、イタリア・ミラノ大学との交流協定を継続することが決まった。</p> <p>・協定校へ留学生（ハンガリー：2名、フィンランド3名、スウェーデン1名）を派遣した。また協定校の短期プログラムに学生3名が参加しオンライン交流を行った。</p> <p>・国際交流事業として、ドイツ・カールスルーエ美術大学との国際交流ドローイング展をカールスルーエ美術大学アトリウム及びサテライトギャラリーSA・KURAにて開催した。</p> <p>[データ集10]</p> <p>・海外危機管理セミナーを学生向、教職員向に実施した。またオンライン留学報告会の開催及び協定校への派遣留学生2名、トビタテの派遣留学生1名に対して渡航1か月後のオンライン面談を実施した。</p> <p>・オンラインコミュニケーションのための英語講座（オンライン）及び留学書類の書き方講座（オンライン）を実施した。</p> <p>・フィンランドのタンペレ応用科学大学では、オンラインで留学生のためのプログラムを実施しており、留学希望者は日本から</p>	

	<p>グラム等について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入留学生への支援の充実及び私費外国人留学生に向けた特別選抜の導入について検討する。 	<p>参加することができている。さらに、テンペレ応用科学大学の学生と本学の学生との共通の課題を課しながら交流する計画について検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本での留学生生活に必要な情報を提供することにより、留学生への支援の充実を図るため、外国人留学生用ガイドブックの作成を検討した。また、私費外国人留学生に向けた特別選抜入については、学部教育を受けるにふさわしい学力の担保ができないことを理由に、導入は難しいという結論に至った。 <p>[データ集 10・11]</p>	
<p>イ 大学広報の強化</p> <p>45 魅力ある教育、質の高い研究、地域・社会貢献活動などに関する情報を迅速に集約・共有できる学内体制を構築するとともに、大学 Web サイトなど情報発信ツールの充実を図り、タイムリーかつ効果的な広報の推進により、芸大のブランド、知名度のより一層の向上を目指す。</p> <p>【重点的計画】</p> <p>(指標) 大学 Web サイト・SNS のアクセス数を、第三期中期計画最終年度に 150 万件以上とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の芸術活動などを迅速に集約・共有し、タイムリーかつ効果的に発信する学内体制を構築する。 ・戦略的・効果的な広報に向け、大学 Web サイトの再構築（英語版も含む）を検討し、具体的に計画するとともに、SNS を活用した情報発信を引き続き推進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育や研究活動、在学生、卒業生の受賞等の情報を情報集約、共有する体制を整えた。情報については、大学 Web サイト「在学生・卒業生の活動」ページ、本学公式 Facebook 及び本学公式 Twitter で、速やかに発信した。 ・大学 Web サイトのリニューアルについては、最新のデザインで、芸大らしい、他大学等と差別化された Web サイトにするために、作業を進め、3月に実施したプロポーザル審査会で依頼業者を決定した。 ・個別に管理している専攻 Web サイトや各施設等の Web サイトを大学 Web サイトに統合するために協議・調整を行った。 ・英語版については自動翻訳システムを導入し、稼働した。 ・芸大公式 SNS として運用している Facebook 及び Twitter において、展覧会・演奏会情報を発信したほか、教員の活動、学生の活動や入学式、卒業式等大学の主要なイベントについての紹介も行うなど積極的に活用した。 ・本年度、Facebook（フォロワー数：2,061人、閲覧：469,772件、イベント投稿数：54件、その他投稿数111件）、Twitter（フォロワー数：1,742人、閲覧：611,557件）、ウェブサイト（アクセス数：528,859）、であった。 <p>[参考資料 21]</p>	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 戦略的な法人・大学運営に関する目標

中期目標	理事長、学長のリーダーシップの下で、大学の強みや特色を生かし、教育、研究、地域連携・貢献の機能を最大化できるガバナンス体制の点検・見直しを行うとともに、社会や地域のニーズを的確に反映し、幅広い視野での自律的な運営改善に資するため、外部有識者等の意見を適切に反映するなど、効果的・効率的な法人・大学運営の推進に努める。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
<p>46 存在感のある、魅力あふれる大学を目指し、理事長・学長のリーダーシップの下、法人・大学の運営体制（学長補佐体制、予算配分等）の充実を図るとともに、ガバナンス機能の定期的な検証、必要に応じた見直しを行うなど、効果的・効率的な法人・大学運営を推進する。</p> <p style="text-align: center;">【重点的計画】</p> <p><指標> 第3期最終年度までに、理事長・学長トップマネジメントによる事業費予算の枠を業務費総額（人件費除く）の1%以上確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人・大学幹部の密接な意思疎通を更に推進するため、常勤役員連絡会議を定期的開催し、必要に応じてその運営方法を改善する。 両大学において、運営体制の検証・必要に応じた見直しを行い、ガバナンス機能を向上させる。 理事長及び学長のトップマネジメントによる予算配分を実施すると 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 常勤役員連絡会議を毎月開催し、役員会・経営審議会における審議事項・報告事項や当面の法人・大学運営に関する課題等について検討・情報交換を継続的に行った。また、昨年度からの新型コロナウイルス感染症の流行により設置したコロナ対策本部会議を定期的開催し、経済的に困窮する学生への支援策やワクチンの職域接種の実施等を早急に決定、実施した。（計21回開催） <p style="text-align: right;">【参考資料 22】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立大学においては、学内全体の研究のさらなる活性化と研究成果の一元的発信を図るため、4月から研究推進局を設置し、「局長」を配置した。また、学内競争的資金の増額による研究の活性化を図るため、学長特別研究費を増額（5,100千円増）するとともに、学内外の研究推進状況、施設等を的確に把握、検証した上で、より効果的、効率的に本学の学術研究の奨励を行うため、運営主体を予算委員会から研究推進局を中心とした組織体制に変更することを決定した。 芸術大学においては、引き続き大学改革支援担当の学長補佐体制を運用し、課題解決に向けたアイデアや管理職の立場を離れた視点での考え方を学長に提案する教員2名を新たに指名し、名古屋工業大学とのプロジェクトの実施やGOTO財団の奨学金制度の設計など、大学のプレゼンス向上施策を学長の指示のもとで実施した。 理事長、学長と財政状況等の見直しや運営上の課題を共有し、優先すべき事業等の指示を仰ぎながら、予算配分及び 	Ⅲ	

	<p>ともに、必要に応じてより効果的な予算編成となるよう改善を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両大学の学長評価を実施し、必要に応じて評価制度の見直しを検討する。 ・法人・大学運営に係る諸課題に迅速かつ的確に対応するため、法人事務局を簡素で効率的な組織に見直す。 	<p>2022年度の予算編成を進めた。その結果、トップマネジメントによる事業費予算額は35,985千円（業務費総額の1.91%）となった。</p> <p style="text-align: right;">[参考資料 23]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術大学学長の本年度末の任期満了（1期目）に伴い、4月の第1回学長選考委員会にて信任評価の実施方法を審議した。7月の教職員を対象とした意向調査を経て、9月に信任評価を実施し、2022年4月から2年間の再任を決定した。また、年度末には県立大学学長及び芸術大学学長の業績評価を実施し、「極めて優れた業績を達成している」と評価した。 ・法人事務局の意思決定の迅速化、県立大学・芸術大学のサポート体制及び情報共有の強化、愛知県との円滑な調整を行うため、4月より法人事務局の組織改正を行った。法人2部門（総務部門、経営財務部門）を1部門（法人事務局）とし、法人事務局に法人企画部、法人管理部を置き、7課1室から6課1室に再編することで、それぞれの情報が速やかに法人事務局長に届くようになり、法人事務局としての意思決定に要する時間がこれまでよりも短縮され、迅速な対応ができるようになった。 			
<p>47 社会や地域のニーズを的確に反映するため、法人・大学を取り巻く社会情勢などの情報を学内外から広く収集し、学外者意見等も踏まえながら幅広い視野での自律的な運営改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会・経営審議会等での学外者意見の情報共有を図り、法人の運営改善に反映する。 ・学内外のステークホルダーから意見聴取を行い、その結果を法人・大学で共有するとともに、必要に応じて運営へ反映させる。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会・経営審議会における学外者意見について、常勤役員連絡会議において共有するとともに、両大学の教育研究審議会において学長より報告し、対応を検討した。学外役員の見解を受け、理事長の指示により「愛知県立大学の現状と将来の展望 中期的検討のためのマーケティング分析」を民間業者に依頼し、今後の入試のあり方についての検討材料とした。 ・大学の各部門等が実施している行政機関、企業採用担当者、高校関係者、大学主催イベントの来場者等からの意見聴取から得られた情報や課題、大学運営への反映状況について、法人内の共有データサーバにて共有し、今後の大学運営、各事業の立案・改善に活用した。また、県立大学においては、各センターの目的及び各学部のプロモーション・ポリシー、アドミッション・ポリシーに関する自己点検・評価を行う中で、高校生、学生、地域住民、企業等学外者からの意見 	<p>Ⅲ</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・自立的な運営改善を推進するため、理事長・副理事長参加による監事監査を引き続き実施するとともに、前年度の監査結果を検証し、必要に応じた見直しを行う。 	<p>も踏まえながら、評価、改善へとつなげる仕組みについて、内部質保証推進委員会を中心に検討、整理を行った。芸術大学では、五芸大学学長懇話会および公立大学協会などから大学改革の動向（質保証システムのなど最新の情報）入手し、必要事項を学内で共有するとともに、コロナ禍における芸術系の他大学の対応について情報収集を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監事監査は、前年度の監査結果、監事の意見等を踏まえ、法人・大学の業務及び会計を対象として実施した。なお、自立的な運営改善を推進するため、引き続き理事長・副理事長参加とした。 			
<p>48 県立大学・芸術大学の連携や、設置者である県との連携をさらに促進するために定期的に情報交換を行うなど、様々な連携による大学の魅力づくりを積極的に推進する。 【重点的計画】</p> <p><指標> 2 大学による連携事業を検討・推進するための会議を毎年2回以上開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「2 大学連携推進会議」を引き続き開催し、両大学が持つ資源や強みを活かした教育・研究分野における連携事業を検討・推進する。 ・愛知県との連携促進に向け、法人内での情報交換や県からの相談等に基づき、必要に応じて学内及び県の関係課等との連絡・調整を行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 大学連携推進会議（2 回）を開催し、両大学の研究・地域連携を担当するセンター長及び事務局職員等に対するのヒアリングの実施や、2 大学が連携した研究を推進するための相談窓口の明確化など、連携を強化するための取組を実施した。 ・県大情報科学部教員と芸大音楽学部教員による共同研究「音楽の生演奏がもたらす感動を非接触で推進する技術の確立」の実施や、両大学の学生による A A I 起業部の創立など、それぞれの大学の強みや特色を活かした連携事業を推進した。 <p style="text-align: right;">[参考資料 24]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県政 150 周年記念協力企業・団体に登録し、県が実施する P R 活動等に協力していくことを決定し、2022 年度に向け予算化を行った。 ・愛知県経済産業局・労働局からデジタル人材育成に向けたリカレント教育に関する要望を受け、各大学関係者へ相談のうえ検討を行った結果、情報科学部において「I C T リカレント教育コンシェルジュ」サービスの開始を決定した。 	III		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標
2 教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標	社会情勢の変化や地域のニーズに対応し、各大学の強み・特色を最大限に生かした教育研究を展開するため、教育研究組織を検証し、必要に応じて見直しを行う。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
49 学部学科及び研究科等の教育研究組織について、社会情勢の変化や地域のニーズを踏まえながら、あり方の検証、必要に応じた見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立大学においては、新教養教育、看護学研究科及び情報科学部の新コース制を開始するとともに、引き続き、社会情勢の変化や地域のニーズを踏まえた学部学科及び研究科の改革について検討を進める。また、学際的な研究や学外との連携を推進するための研究所新体制を開始する。 ・ 芸術大学においては、教育研究組織のあり方について検証し、必要に応じて見直しを検討するとともに、メディア映像専攻の開設に向けた準備を進める。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教養教育については、愛知に根ざしたグローバルな視野での学びを展開する新教養教育「県大世界あいち学」を開始するとともに、教養教育センターにポルトガル語関係専任教員を新たに配置した。看護学研究科においては、複雑多様化するコミュニティの健康課題に対応できる優れた人材を育成するための公衆衛生看護高度実践コース（保健師国家試験受験資格取得・4名入学）、情報科学部においては、第4次産業革命や超スマート社会を見据えた新たなコース編成による教育体制を開始した。また、全国で2番目に外国籍住民が多い愛知県における現状や課題等を踏まえ、国際文化研究科へのコミュニティ通訳学コースの新設（2022年4月）、外国語学部におけるポルトガル語圏コースの新設（2023年4月）を決定した。研究体制については、学際的な研究や学外との連携、積極的な外部資金の獲得の推進に向け、新たに研究推進局を設置するとともに、同局が一元的に管理する研究所新体制を開始した。 ・ メディア映像専攻の開設（2022年4月）に向け、新専攻設立準備委員会（教員10名、事務部門長等）において、カリキュラム内容や、教職課程の設置、非常勤講師の決定等、具体的な準備を進めた。また、メディア映像専攻の開設に伴い、美術研究科における将来的な編成について研究科長を中心に検討を進めた。 	III	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標
 3 人材の確保・育成に関する目標

中期目標	教育研究活動及び大学運営の質の向上と活性化に向け、人事諸制度の適切な運用、必要に応じた見直しを行う。 また、全教職員のワーク・ライフ・バランスの取組を推進するとともに、女性教職員の定着・活躍に向けた組織的な取組を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
50 教員の一人ひとりが、その意欲を高め、能力を発揮し、質の高い教育研究や大学運営を実現できるよう、採用、昇任、給与、評価等人事諸制度の適切な運用、必要に応じた改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用等について、現行制度を適切に運用し、必要に応じて見直しを行う ・教員評価制度を適切に運用し、必要に応じて見直しを検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大学においては、全学人事委員会において、学部の採用人事（公募要項）が「グローバル社会で活躍できる人材を強化する」等の中期目標・中期計画や学部の目指すべき方向性である将来計画を見据えた内容であること等をもって審議・承認を実施した。昇任についても、教授会で承認を得た者について、全学人事委員会において審議・承認を実施した。 ・芸術大学においても、全学人事委員会を開催し、教員の採用及び昇任について制度に従い審議・決定を行った。また、美術学部教員昇任資格審査の研究業績書について記載方法の検証を行い、展覧会等の業績単位・内容表記、著書、学術論文の分類・表記方法等を統一したフォーマットを作成した。 ・両大学において、各教員が実施した自己点検・自己評価の内容に基づき、適切な人事評価を行った。また、県立大学においては、評価委員会での検討の内容を踏まえ、自己点検・自己評価報告書の提出に関し、アプリ上で行うことにより、一部の項目を数値化できるよう変更した。 	Ⅲ	
51 法人・大学運営の多様化・高度化等を踏まえ、教員・職員を対象としたSDの実施等を通じた大学マネジメント人材の育成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成方針に基づき、教職員が大学運営に資する専門知識を修得するため、教員・職員向け研修等を計画的に実施する。また、今後の人材育成を見据えて、人材育成方針の見直しを行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年実施している新規採用職員研修、階層別研修、及び専門研修等について、新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ実施した。一部の研修については、eラーニングを活用し、階層別研修（「コーチング研修」（59名参加）、「メンタルヘルス（ラインケア）研修」（25名参加））、専門研修（「メンタルヘルス（セルフケア）研修」（14名参加）、「モチベーションが持続する目標設定の仕方講座」（42名参加））を実施した。 	Ⅲ	

		<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成方針の見直しに向けたアンケート調査を実施した結果、課題として「適切な人材育成ができる人材の不足」、「職場全体での育成力の低下」等があげられた。このアンケート結果等を踏まえ、「愛知県が設置する大学の職員として、地域及び大学への強い愛着を持ち、公立大学の『大学人』としてその発展に貢献する意識を強く持ち、行動する職員」をめざす職員像（キャリアモデル）として掲げ、研修内容の拡充等を行った新たな人材育成方針を作成した。 			
<p>52 大学の教育・研究・地域貢献・グローバル化等を支える事務職員の育成のため、職員研修の計画的な実施や他機関への職員派遣などに取り組むとともに、職員の勤務意欲の向上や人材育成に資する人事評価を行うため、職員の人事評価制度の定期的な検証と必要に応じた見直しを行う。 【重点的計画】</p> <p><指標> 第三期最終年度までに、海外派遣及び他機関への派遣研修に従事した経験を有する法人固有職員の割合を30%とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短期海外研修を含む各種研修を実施するとともに、他機関派遣の計画について見直しを検討する。 ・保健師職の専門性を高めるため、県の派遣職員から法人固有職員への切り替えに向けた採用方法等について検討する。 ・現行の人事評価制度を適切に運用するとともに、評価結果のより適切な反映に向けて定期的に検証を行い、必要に応じて見直しを検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期海外研修については、新型コロナウイルス感染症による渡航制限により実施できなかった。 ・他機関への職員派遣については、4月から公立大学協会及び愛知県（多文化共生推進室）に職員を派遣し、2020年度より派遣している名古屋大学を含め3名を他機関に派遣した。 <p>[参考資料 25]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師職の法人固有職員の確保のため、適切な採用方法を検討した。また、専門的な業務を円滑に進めるため、専門職種の必要性について検討を行い、「施設整備」、「情報システム」の専門職として民間企業等での職務経験を活かして活躍できる人材の確保のため職員採用試験を実施したが、合格者は出なかった。 ・現行の人事評価制度により評価を実施し、給与への反映を行った。また、職制上の段階の標準的な職の職務を遂行する上で職務上発揮することが求められる能力を具体的に示すことにより、各職員が自分の職に求められている能力を自覚して職務にあたるため、県の人事評価制度を参考としながら、評価項目の見直しを行った。 	Ⅲ		
<p>53 より働きやすい職場環境づくりを目指し、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画の実現に向けて働き方改革を推進するとともに、「女性活躍促進法」に基づく行動計画を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より働きやすい職場環境づくりを目指して、時間外勤務の削減、年休取得の促進など、職員の意識改革を進める。 ・仕事と家庭の両立支援等、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に時間外勤務の縮減及び年次休暇の計画的使用の促進について通知を発出するとともに、所属長から年次休暇取得の働きかけを実施した。 ・県の「あいちワーク・ライフ・バランス推進運動 2021」に賛同し、定時退庁（ノー残業デー）の設置や年休の取得促 	Ⅲ		

	<p>・最終年度となる「女性活躍促進法」に基づく行動計画の取組状況を確認しつつ新たな行動計画を策定する。</p>	<p>進などに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、在宅勤務、職務専念義務の免除、時差出勤の制度活用を促進するため、対象範囲の拡大、手続きの簡素化などについて、感染状況に応じて運用を見直しつつ周知を行った。 ・現行の行動計画（2019年度から2021年度の3年間）に基づき、働きやすい環境づくり（県大：会議時間の10%減、法人：時間外勤務時間の10%減（結果：約35%減）、女性教員比率の向上（芸大：25%以上）、女性管理職の登用などを目標に取り組んだ。2021年度の新規採用教員12名のうち、女性は5名となった。※女性教職員比率：47.9% ・新行動計画の目標には管理職を担える女性教職員の育成として、マネジメント研修や人事評価者研修を実施することにより「管理職（管理職手当受給者）に占める女性教職員の割合を50%以上とする。」を掲げた。 		
--	--	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標
4 事務の効率化・合理化等に関する目標

中期目標	より効率的、機動的な組織運営、教育研究のサポート機能の向上のため、組織や業務の見直しなどを通じ、事務の効率化、合理化を図る。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
54 事務の効率化・合理化に向け職員の意識啓発を行うとともに、業務執行上の課題を抽出し、システム化の検討など業務の見直し・改善を図る。	・事務の効率化・合理化に向け、職員の意識啓発を行うとともに、具体的な方法や規程の見直しについて検討する。	「年度計画を十分に実施している」 ・業務の効率化・合理化の提案を全職員に対して募集し、8件の提案がなされた。提案に対して、関係部署にヒアリングを行うなど、具体的な改善方法等について検討を行った。提案・問題提起に基づき、「窓口対応の実践例」について具体的なアイデアを全職員に募集し、それを「事務職員しごとのアイデア集」として取りまとめて共有を行った。	Ⅲ	

第3 財務内容の改善に関する目標

中期目標	外部研究資金や寄附金の獲得など自己収入増加に向けた取組を強化するとともに、効率的な運営により経費節減に努め、安定的な財務運営を実現する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
55 法人運営の安定性と自立性を確保するために、積極的に多様な外部資金の獲得に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費、助成金等の外部資金の獲得増に向けた研究支援策の強化について検討・推進する。 ・ 愛知県立大学基金・愛芸アシスト基金の寄附金額の増加に向けた取組を推進する。 ・ 新たな外部資金の獲得に向け、具体的な調達手法について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、両大学において外部資金の公募情報を教員へ定期的な提供や申請書類作成に関する相談に対応するなど、外部資金の獲得増に向けた取組を推進した。また、県立大学においては、新研究所及びプロジェクトチームの運営開始に必要な規程、各種様式の整備等、円滑かつ積極的に研究推進を行える体制を整えた。それにより、研究所及びプロジェクトチームによる、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、助成金等）や客員共同研究員の受入が可能となった。6研究所・1プロジェクトチームのうち、3研究所が外部資金のみによる運営をしている。 [データ集5・6] ・ 両基金ともに、保護者や卒業生への寄附呼びかけを行うとともに、学内行事や各種イベントにおいて、パンフレットや申込書を配布するなど、寄附金増に向けた案内を行った。 (愛知県立大学基金 寄附件数：17件 (13,718千円)) (愛芸アシスト基金 寄附件数：123件 (3,610千円)) ・ クラウドファンディングの実現にむけて、クラウドファンディング取扱要綱案を作成した。 ・ 愛知県立大学においては、学術研究の奨励を行うため、学長特別研究費をより効果的・効率的に活用することができるよう運営体制の見直しを行い、2022年度実施分（長期学外研究を除く）より、運営主体を予算委員会から研究推進局を中心とした組織体制に変更することを決定した。また、企画運営・広報に携わる教員・職員を中心とした「戦略的な大学運営に向けた勉強会」を開催（3回）し、新たな手法による外部資金の獲得に向けた検討を行った。 	Ⅲ	

<p>56 効率的、効果的かつ計画的な経費執行に努めるとともに、経常経費の節減を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物品購入の集約化、契約の複数年契約化により調達コストの削減を図る。また、管理事務の情報システム化、省エネ機器の導入等により経費削減を図る。 人件費、定数の適切な管理及び検証を行い、必要に応じて見直しを検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 物品購入については、複数業者からの見積り取を徹底し、新たな調達先の開発により選択肢を増やすなど、低価格での調達に向けた見直しを行った。また、これまで2大学別々に契約していた電気需給契約が同時期に終了することから、長期契約2施設に小規模2施設を含めた2大学4施設（県立大学長久手・守山、芸術大学及び芸大学生寮）を一契約とする電気需給について、2022年度から3年間の長期契約を締結した。この契約により、大幅割引の適用が受けられ、経費削減を図ることができた。 適切な予算管理の推進のため、旅費システムと財務会計システムを連携し、リアルタイムで予算差引を可能にする予定であったが、基盤システムの更改が遅れたため、当該連携に係るシステム改修は2022年度へ延期した。 コロナ禍での省エネに貢献できる自動水栓化を進めるとともに照明のLED化など法人所有施設での省エネ設備機器への計画的な更新を進めた。 業務量の平準化のため、法人事務部門と県大事務部門との間で人員配置について適正な配分を行った。 	<p>Ⅲ</p>		
---	--	---	----------	--	--

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
1 評価の活用に関する目標

<p>中期目標</p>	<p>自己点検・自己評価や外部評価等を定期的に行い、評価結果を公表するとともに、教育研究及び業務運営の改善に活用する。</p>
-------------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価		
			自己評価	委員会評価	
<p>57 大学の教育・研究・地域貢献及び大学運営に係る自己点検・評価、法人評価及び認証評価等の外部評価を定期的に行い、その結果を公表するとともに、教育研究の質向上、業務運営の改善等に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県立大学においては、自己点検・評価を行うそれぞれのレベル（授業レベル、教育課程レベル、大学レベル）ごとのPDCA（計画、実施、チェック、改善）を試行し、 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年度に構築した内部質保証体制に基づき、内部質保証推進委員会を発足し、各センターの目的及び各学部のディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーに関する自己点検・評価に着手した。さらに、内部質保証の取組を学内全体に浸透させ、今後の課題や改善策の検討につなげる 	<p>Ⅲ</p>		

	<p>具体的な運用方法を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術大学においては、次期認証評価の受審に向け、自己点検・評価のあり方、体制の整備について検討する。 ・法人評価委員会による評価を受審し、結果を公表するとともに、評価に基づき、次年度以降の計画立案及び業務運営に繋げる。 	<p>ため、各学部・センターからの報告会・意見交換会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期認証評価の受審に向け、必要な評価項目に関するアンケートについては、「大学教育質保証・評価センター」が求める評価基準と点検ポートフォリオを精査した上で、計画を策定することとした。また、受審体制については、教育研究審議会委員を中心に役割分担をし、将来計画委員会とも連携をしながら認証評価に対応することとした。 ・2020年度実績について、自己点検・自己評価を行った上で、法人評価委員会による評価を受審し、「中期計画を順調に実施していると認められる」との全体評価を得た。この結果をWebサイトで公表するとともに、9月の年度計画自己点検委員会（県大）、年度計画検討会（芸大）において評価結果を共有し、その結果を踏まえて2022年度計画の策定及び中期計画の進捗管理に反映させた。 			
--	--	---	--	--	--

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標	大学の教育研究、社会貢献（地域貢献）や業務運営等の活動情報を積極的に発信し、大学のブランド力の向上のための戦略的な広報活動を展開する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
58 大学の認知度やブランド力の向上のため、多様な広報媒体等を活用し、教育研究、社会貢献にかかる大学の活動情報を積極的かつ効果的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の活動情報の把握や広報活動計画の策定のほか、ステークホルダーに応じた広報手段、効果的な情報発信について検討を行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、広報連絡会議を開催して両大学の取組・重点広報事項などを共有しつつ、効果的な広報活動の展開に向けて検討を行った。また、広報に関するマニュアル等（記者発表を活用した広報の推進について、危機発生時の広報について、記者発表の手順について）を作成し、周知を行った。 ・県立大学においては、学生広報スタッフによるInstagramを始めとしたSNSを大学Webサイトと連動して、教員・学生の活動状況、イベント、入試情報など、最新情報を随時配信した。さらに、2022年度からは学部毎に選出した学生 	Ⅲ	

		<p>が高校生を対象に自身が所属する学部・学科に関する情報を発信する Twitter を開設することを決定した。また、学生広報スタッフを中心に、コロナ対策動画を教職員と協同して制作し、YouTube 等により多言語で発信した。</p> <p>・芸術大学においても、SNS により各種展覧会・演奏会情報のほか、教員の活動、学生の活動や入学式、卒業式等大学の主要なイベントについて紹介した。また、大学 Web サイトのリニューアルについて、芸大らしい他大学と差別化されたものにするべく、内容を検討し、委託業者を決定するとともに、個別に管理している専攻 Web サイトや各施設等の Web サイトを統合するための協議や調整を行った。また、英語版サイトについて自動翻訳システムを導入し、稼働を開始した。</p>			
--	--	---	--	--	--

第5 その他業務運営に関する目標

1 施設・設備の整備・維持管理及び安全管理に関する目標

中期目標	大学施設の老朽化対策、計画的な維持管理など施設マネジメントを実施するとともに、学生・教職員の安全安心の確保と危機管理体制の点検・見直しを行う。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
<p>59 良好で安全・安心な教育研究環境を維持するため、施設・設備の点検を定期的 に実施するとともに、長寿命化計画の検 討も含めて県と調整を図りながら、計画的かつ効率的に施設・設備の整備、改修、 修繕を実施する。併せて、情報セキュリティ（個人情報の漏えい防止等）を確保 するとともに、情報基盤ネットワークの 強化を図る。 【重点的計画】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の定期的な点検、計画的・効率的な整備を推進し、必要に応じて整備方法の見直しについて検討する。 法人所有施設の長寿命化改修計画の検証を進め、初期改修対象施設の整備方法についての方向性を決定する。また、芸大の県所有施設の長寿命化改修基本設計業務に協力する。 情報基盤ネットワークシステム（AIRIS）の更改を適切に進める。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の点検を適宜行い、冷温水発生機冷却塔整備、照明の LED 化、トイレの手洗自動水栓化（県立大学）や、奏楽堂非構造部材の耐震工事（芸術大学）等を実施した。 築 35 年超の長久手・守山体育館の 2 棟が長寿命化初期改修対象施設となるため、県費による整備に向けて県との交渉を進めた。また、芸大の県所有施設について、県が実施している今後約 12 年間の整備のための基本設計について、建物毎の責任者を明確化して、使用者として主体的に計画策定に協力した。 情報基盤ネットワークシステム（AIRIS）の更改について、総合評価一般競争入札により業者選定を行い、契約を行った。 	Ⅲ	

	また、情報セキュリティを確保するための具体的な対策を検討し、実施する。	順次、機器の更新作業を進めるとともに、その運用方法について、ネットワーク支援室会議で、大学におけるネットワークの利用の検討を進めた。情報セキュリティについては、テレワークが実施可能なネットワーク設備を導入した。また、情報セキュリティの向上のため、2段階認証の導入について検討を進めた。			
60 老朽化が著しい芸術大学については、早期整備に向けた県への積極的な働きかけと施設整備への協力を行うとともに、既存施設の利活用についても検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸大の老朽施設の早期整備に向けた県への積極的な働きかけを行うとともに、県が実施する施設整備（新彫刻棟等）に協力する。また、既存施設の利活用について継続して検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県への継続的な要請が認められ、老朽化等への修繕案件5件（奏楽堂舞台床・装置改修、大学会館食堂厨房床改修、芸術資料館トップライト漏水修繕、機械室棟変圧器更新、奏楽堂動力盤更新）の県の予算措置がなされ、実施された。 ・ 新棟整備として、メディア映像スタジオの建設（2022年4月供用開始）、および新彫刻棟の実施設計（2022～2023年度建設予定）が進められ、施設に必要な機能や仕様、現状の問題点等について説明を行う等積極的に県に協力した。 ・ 未利用施設の利活用について検討を行い、今年度取り纏めたキャンパスマスタープラン2021において施設ごとの計画を示した。 	III		
61 大規模災害発生時等における学生・教職員の安全安心の確保のため、危機管理体制について点検・検証を行い、体制の充実・強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症への対応を適切かつ柔軟に行うとともに、訓練の実施など防災対策を継続して実施する。 ・ 災害発生時の教育・研究環境確保等のための事業継続計画（BCP）作成に向け、具体的な検討を行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度からの新型コロナウイルス感染症の流行に伴って設置したコロナ対策本部会議を21回開催し、経済的に困窮する学生への支援策やワクチンの職域接種の実施等について検討し、早急な対応を行った。 ・ 両大学において災害発生時対応マニュアルを配布するとともに、各キャンパスにおける防災訓練について、感染症対策を講じた上で実施した。 <p style="text-align: right;">[参考資料 22]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業継続計画（BCP）の策定に向け、担当者による研修会の受講、BCP策定済みの大学への聴取を行った。その上で、計画作成に向けたスケジュールや検討事項・課題等について常勤役員連絡会議において共有し、2022年度中に作成する方針を確認した。 ・ 県立大学守山キャンパスにおいては、事業継続マネジメント（BCM）ワーキンググループを定期的に開催し、大規模災害に備えた防災訓練の実施計画および災害発生時におけるマニュアルの整備、備品管理などを行った。 	III		

第5 その他業務運営に関する目標
2 法令遵守に関する目標

中期目標	法令等を遵守し、適正な法人運営を行うため、ハラスメント・研究不正等の防止、情報セキュリティ対策等のコンプライアンスの徹底を図るための取組を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価	
			自己評価	委員会評価
62 ハラスメント・研究不正・研究費不正行為の未然防止や、情報セキュリティ・個人情報保護等のコンプライアンスの徹底のため、継続的な啓発活動・研修等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント未然防止のための教職員及び学生向けの啓発活動研修等を計画的に実施するとともに、より効果的な研修体制となるよう、実施方法等の見直しを行う。 研究倫理 e ラーニングの受講促進などにより、教職員及び学生の研究倫理意識の共有を徹底する。 情報セキュリティに関し、継続的な啓発活動を行う。 個人情報の適切な取扱いに関し、継続的な啓発活動を行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> パワーハラスメント対策の義務化に伴い、ハラスメントの防止等に関する規程を改正し、職員に対して、啓発リーフレットの配布、相談窓口の周知を行った。また、e-ラーニングによるコンプライアンス研修にハラスメント防止に関する内容を盛り込み、啓発の強化を図った。 県立大学においては、新任教員説明会での研究倫理 e ラーニング受講手順書等の配付、研究推進委員会を通じた周知、大学院生向けのユニバ掲示を行うことによって受講を促し、研究倫理意識の向上に努めた。未受講者に対してはメール・電話等で丁寧呼びかけを行った。(受講率：教員 100%、職員 100%、大学院生 100%)。芸術大学においては、継続的に教授会等で研究倫理 e ラーニングの受講について周知を行うとともに、大学院生の未受講者についても継続して呼びかけを行った(受講率：教員 100%、職員 100%、大学院生 92.5%) 全教職員・学生を対象に e ラーニングによる情報倫理研修を実施した(受講率：事務職員 100%、専任教員 81%、正規学生(県大 46%、芸大 22%)。また、情報セキュリティに関するメールによる注意喚起を適宜実施した(18回)。 職員に対する個人情報管理者点検を4回(7月、10月、1月、3月)実施した。また、新規採用職員研修において個人情報の適切な取り扱いについての研修を実施した。 	Ⅲ	

第6 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

第7 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
<p>1 短期借入金の限度額 1.2億円</p> <p>2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入れすることも想定される。</p>	<p>1 短期借入金の限度額 1.2億円</p> <p>2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入れすることも想定される。</p>	<p>該当なし</p>

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

中期計画	年度計画	実績
<p>予定なし</p>	<p>予定なし</p>	<p>該当なし</p>

第9 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
<p>決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p>	<p>・決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p>	<p>該当なし</p>

第10 施設・設備に関する計画

中期計画		年度計画	実績			
<table border="1"> <tr> <th>施設・設備の内容</th> <th>財源</th> </tr> <tr> <td>中期計画の達成に必要な施設・設備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等</td> <td>施設整備費補助金、 教育研究環境整備等積立金、 その他自己収入等</td> </tr> </table>	施設・設備の内容	財源	中期計画の達成に必要な施設・設備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	施設整備費補助金、 教育研究環境整備等積立金、 その他自己収入等	施設及び設備に関する計画 ・校舎等修繕（県大） 213,950千円 ・校舎等修繕（芸大） 124,607千円 ・施設整備、改修等（事務局） 30,000千円	施設及び設備に関する計画 ・冷却塔 CT2-1・2 分解整備等（県大） 237,796千円 ・構内道路側溝蓋設置等（芸大） 147,871千円
施設・設備の内容	財源					
中期計画の達成に必要な施設・設備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	施設整備費補助金、 教育研究環境整備等積立金、 その他自己収入等					
注) 中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽化度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。 注) 額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。						

第11 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
教育研究機能を始めとする大学の諸機能の充実と活性化並びに法人運営の効率化を進めるための人事制度を運用する。 中期目標を達成するための措置に掲げる人事諸制度の事項について、着実に取り組む。	・中期計画に掲げる人事制度の事項について、着実に取り組む。	「計画の実施状況等」を参照

第12 積立金の使途

中期計画	年度計画	実績
前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・法人情報セキュリティ・基盤強化事業及び芸術大学教育充実のための楽器購入等に充当

○ 別表 (学部の学科、研究科の専攻等)

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員 (a) (名)	収容数 (b) (名)	定員充足数 (b)/(a) x 100 (%)
県立大学	外国語学部	1,360	1,658	121.9
	英米学科	400	483	120.8
	ヨーロッパ学科	540	670	124.1
	フランス語圏専攻	180	227	126.1
	スペイン語圏専攻	180	227	126.1
	ドイツ語圏専攻	180	216	120
	中国学科	200	240	120
	国際関係学科	220	265	120.5
	日本文学学部	400	469	117.3
	国語国文学科	200	230	115
	歴史文化学科	200	239	119.5
	教育福祉学部	360	396	110
	教育発達学科	160	172	107.5
	社会福祉学科	200	224	112
	看護学部	360	365	101.4
	看護学科	360	365	101.4
	情報科学部	360	397	110.3
	情報科学科	360	397	110.3
	学部合計	2,840	3,285	115.7
	国際文化研究科	45	43	95.6
	博士前期 国際文化専攻	20	15	75
	博士前期 日本文化専攻	10	9	90
	博士後期 国際文化専攻	9	12	133.3
	博士後期 日本文化専攻	6	7	116.7
	人間発達学研究科	29	39	134.5
	博士前期 人間発達学専攻	20	27	135
	博士後期 人間発達学専攻	9	12	133.3
	看護学研究科	54	64	118.5
	博士前期 看護学専攻	42	49	116.7
	博士後期 看護学専攻	12	15	125
	情報科学研究科	69	73	105.8
	博士前期 情報システム専攻	20	23	115
	博士前期 メディア情報専攻	20	21	105
	博士前期 システム科学専攻	20	22	110
	博士後期 情報科学専攻	9	7	77.8
	大学院合計	197	219	111.2

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員 (a) (名)	収容数 (b) (名)	定員充足数 (b)/(a) x 100 (%)
芸術大学	美術学部	380	409	107.6
	美術科	200	220	110
	日本画専攻	40	46	115
	油画専攻	100	106	106
	彫刻専攻	40	43	107.5
	芸術学専攻	20	25	125
	デザイン・工芸科	180	189	105
	デザイン専攻	140	149	106.4
	陶磁専攻	40	40	100
	音楽学部	400	415	103.8
	音楽科	400	415	103.8
	作曲専攻	40	40	100
	声楽専攻	120	122	101.7
	器楽専攻	240	253	105.4
	学部合計	780	824	105.6
	美術研究科	95	119	125.3
	博士前期 美術専攻	80	98	122.5
	博士後期 美術専攻	15	21	140
	音楽研究科	69	77	111.6
	博士前期 音楽専攻	60	66	110
	博士後期 音楽専攻	9	11	122.2
大学院合計	164	11	122.2	